

## 新型コロナの症状について【2025年最新版・期間や経過も紹介】

2025.07.25 急性疾患, 新型コロナウイルス感染症



依然、季節を問わず猛威をふるいやすいのが「新型コロナウイルス感染症」です。特にここ最近再度増えてきましたね。

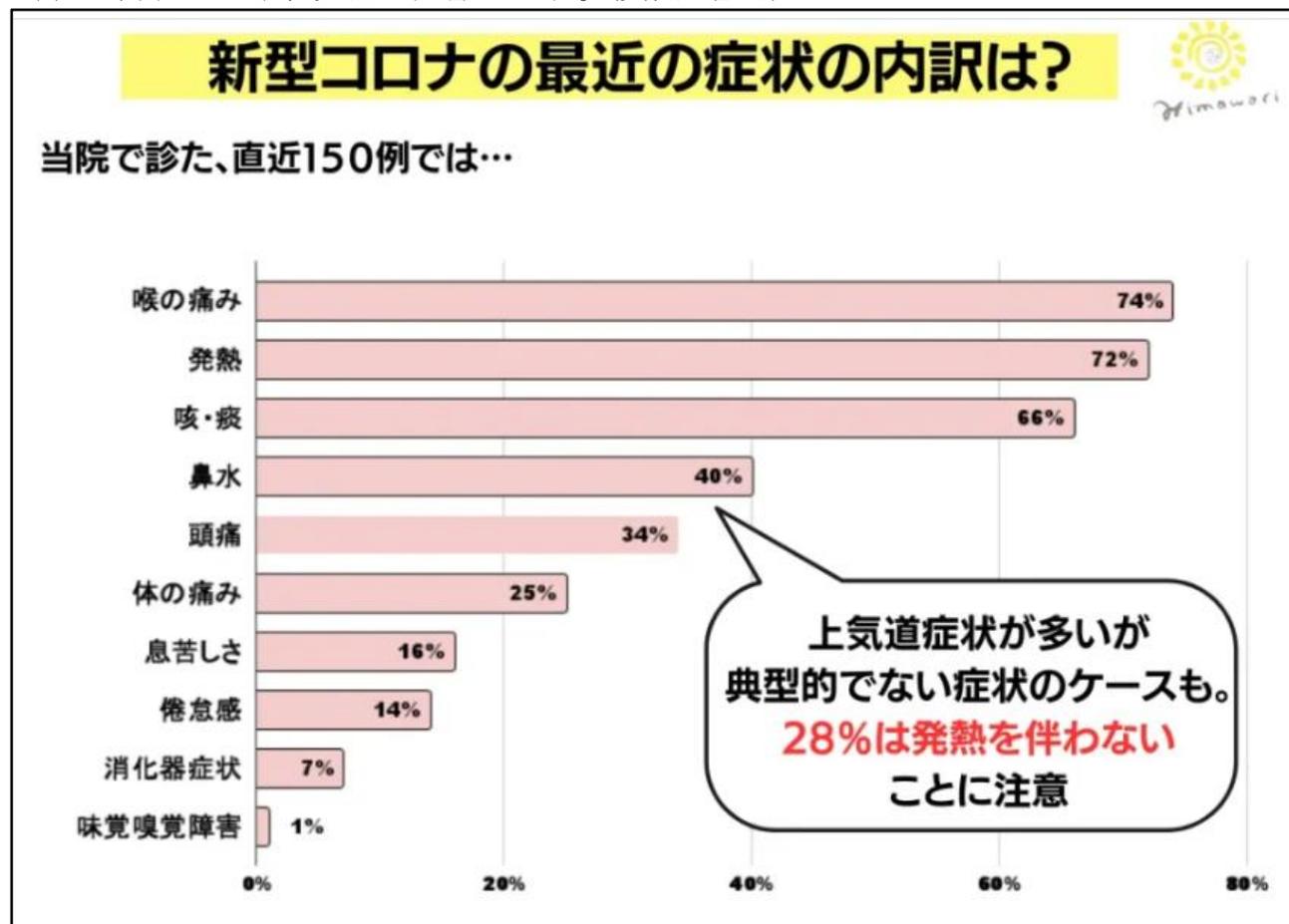
しかし、最近はコロナの症状などが報道されなくなったこともあり、いざ体調が悪くなった時に「どの症状がコロナ感染症かわからない」とお悩みになられる方も多いのではないのでしょうか。

そこで、当院で来院された最近の150名の新型コロナ陽性者の症状についての情報を解析し、発熱やのどの痛みや鼻水などの特徴を踏まえて、わかりやすくお話していきます。また、コ

ロナの初期症状が出たらどう対応すべきか等も説明していきます。

### 新型コロナの主な症状は？

当院で新型コロナ陽性となった直近150名の方の訴えられた主な症状は次の通りです。  
(平均年齢38.9歳、女性の割合は57%。複数回答可)



となっています。やはり、発熱や上気道症状を中心に訴えられるかたが多いですね。息苦しさはご本人が訴えられる症状として言われているので、いわゆる酸素飽和度が低い「呼吸困難」という状況ではありません。

また、だるさや倦怠感も発熱などの他の症状がつらくて、訴えとして挙げられていないため、他の報告よりも低い印象がありますね。

統計的にみるとわかる通り、初期症状でコロナの代名詞であった味覚嗅覚障害を訴えられ

る方はほとんどいなくなりました。ただし、後から罹患後症状としていわれることは今でもあります。

実は、この他にも色々いわれることは多いです。例えば、

めまい、ふらつき、立ちくらみ

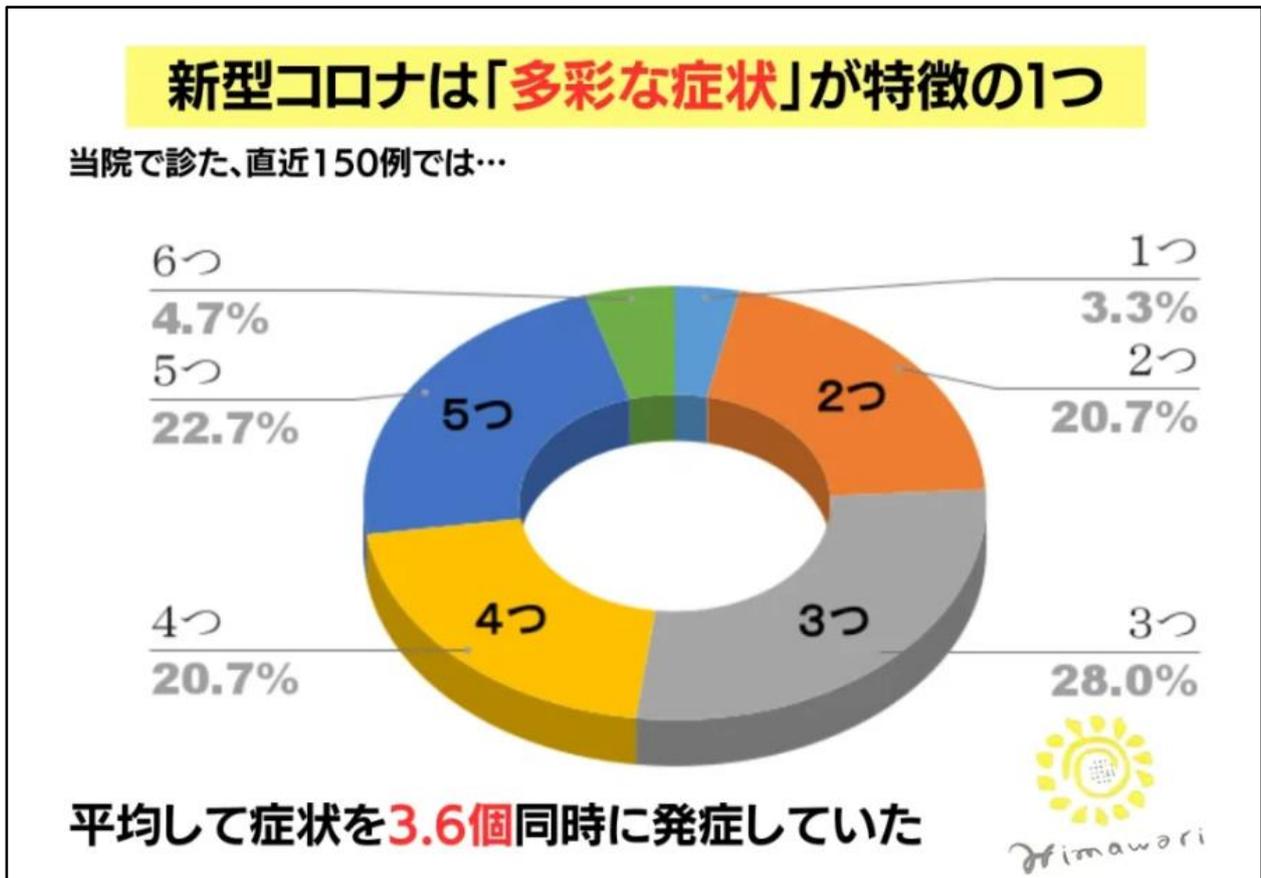
目の腫れや痛み

全身のかゆみや違和感

睡眠障害、不眠症

などですね。後述しますが、様々な症状がコロナでは引き起こされます。

**新型コロナの症状の特徴といつまで続くのかについて**



全体的な新型コロナの症状の特徴としては「症状の多彩さ」があげられます。

こちらは、直近の129例の方で訴えられた「症状の数」を円グラフにしたものです。最高で「5つ」の症状をあげた方もいましたが、多くは、3つ～4つくらい症状を上げています。(例えば、発熱、頭痛、喉の痛み、咳・痰といったようですね)

平均すると3.6個あげていました。

しかし、一方で、「発熱と関節痛だけ」「咳とだるさだけ」「鼻水だけ」といったように、症状が乏しいケースも存在します。(鼻水だけのケースは家族内のコロナ感染から判明しました)

このように考えると、さまざまな感染症を見ていますが、新型コロナは「結構幅広い症状に対して考えないといけないな」と感じますね。

多くの症状は5日～7日くらいまで続きます。一部の症状は悪化もしくは長引き、再度受診するケースもあります。そして稀に後遺症として残ることがあります。

後遺症については新型コロナ「オミクロン株」での後遺症の割合や症状・期間についても参照してください。

**新型コロナの各症状の特徴は？**

## 新型コロナの主な症状



発熱



頭痛

症状が多彩になりやすい



咳



のどの痛み



息切れ  
呼吸困難



鼻水  
鼻づまり



倦怠感



下痢  
おう吐

当院では48%に対して、新型コロナの治療薬を処方しています

新型コロナが5類に移行してから、新型コロナの治療薬は公費ではなくなり3割負担となりました。

もともと高額な治療薬であり、1万5000円から最大3万円近く払うこととなりますが、当院では経済的なことや医学的なことも含めてお話ししたうえで、患者さんに治療薬を希望するか選んでもらっています。

(新型コロナ治療薬の詳細についてはコロナで使われる薬について【一覧・種類・自己負担】を参照してください)

結果、52.5%の方が新型コロナの治療薬を希望されるという結果になりました。ちょうど半分よりやや処方よりですね。

理由は様々ですが、

あまりに症状が辛いから一刻も早く治したい

もともと基礎疾患があるので、きちんと治したい

前回、コロナの後遺症で大変なめにあったから処方してほしい

周りへの影響も緩和したいし、症状がよくなるのであれば処方してほしい

などがあります。もともと高額な治療薬なので、どの医療機関でも気軽に処方できる薬ではありません。当院では薬局と連携して確保してもらいながら、患者さんにとって最適な治療法を選択していきますので、心配される方はぜひご来院ください。

**新型コロナの症状が疑わしい場合は、どう対応すべき？**

では、いざコロナが疑わしい症状だったらどう対応すべきでしょうか？

まず原則は医療機関に受診するようにしましょう。新型コロナの感染力はインフルエンザと比較しても非常に高く、原因がわからないまま放置すると感染拡大やクラスター発生の原因にもなります。また、重症化リスクの方には依然として脅威のウイルスであり、そうでない方も後遺症が残りやすいウイルスであることには変わりません。

発症3日早期なら抗ウイルス薬を処方することもできますし、抗ウイルス薬により発症期

間を短縮させ、入院率を低下させたり後遺症のリスクを減らすこともできます。いずれにせよ医療機関で原因を追求することは非常に大切なことです。(抗ウイルス薬についてはコロナで使われる薬について【一覧・種類・自己負担】を参照してください)中には38度以上の熱が出た人も市販薬で様子をいますが、それは厳禁です。「明らかに普通と違う状態」があるなら、病院に受診してください。(「昨日発熱したけど、翌日下がっていたから問題ない」を思うのも早計です)

一方、もちろん放置はよくありませんが、「軽いのどの痛みがあるかな」くらいだと検査として陽性が出にくいこともあります。ケースバイケースですが、1日くらいなら遅れても大丈夫なので、はっきり症状が出てから検査するのも1つの手ですね。それくらいの症状なら市販薬で様子を見るのもよいでしょう。

詳しくは新型コロナに対する市販薬について【発熱や咳などの症状別】も参考にしてください

### 新型コロナの症状についてのまとめ

このように、新型コロナは「多彩な症状として言われやすい」感染症の1つです。

また抗ウイルス薬もありますが、他の抗ウイルス薬・抗生剤と比較しても高額であり(3割負担で15,000円以上)、治療にもしばしば難渋する疾患とも言えます。(特に後遺症の問題は今でも健在です)

各感染症についての特徴もまとめてありますので、「疑わしいな」と思ったら自己検査を正しく行っていただいたり、医療機関に受診して検査してもらったりしながら、早めに治療に専念していただきたいと思います。

#### 【この記事を書いた人】

一之江駅前ひまわり医院院長の伊藤大介と申します。プロフィールはこちらを参照してください